

こどもはな 子供の花まつり

■ 楽曲データ

歌詞：賀来琢磨 作詞

楽曲：本多鉄磨 作曲

発表：日本仏教童謡協会 1931年

初演：—

初出：『新仏教音楽』3・4合併号 日本仏教童謡協会 1933年

管理番号：M0230

■ 創作の経緯

原題は《花まつり》。『新仏教音楽』3・4合併号では、「幼年向けの『花まつり讃歌』が非常に少いので […] 賀来氏は昭和6年3月制作」と紹介されているが、後年、作曲者自身は「必ずしも幼児向に作ったのではなかった」と述べている。1942年に賀来琢磨による振付けが発表されており、このときに《子供の花まつり》という現行タイトルに改められたと考えられる（『花まつり歌曲集』1942年）。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集 こども編』第1巻収録

底資料：『仏教讃歌集 幼児篇』フレーベル館 1956年

比較資料1：『新仏教音楽』3・4合併号 日本仏教童謡協会 1933年

比較資料2：『特選 花まつり歌曲集』東邦音楽書房 1942年

比較資料3：『佛教讃歌 こどものうた』本願寺出版協会 1973年

校訂の詳細：特になし

■ 解説

4月8日は、花まつり。お釈迦さまのご誕生をお祝いする日です。新入生にとっては、園で初めて触れる仏さまの行事でしょう。誕生仏（天と地を指さすお釈迦さまのお姿）に甘茶をそそぎ、白い象さんとパレード……。花まつりのさまざまな場面で、今回ご紹介する仏教讃歌《子供の花まつり》を歌い、ご誕生のお祝いをしていただきたいと思います。

◆ 作品について

作詞者は、賀来琢磨（1906～1975）です。仏教讃歌の創作活動を行うとともに、子ども向け仏教讃歌の振付けを数多く手がけました。《子供の花まつり》も、賀来によって振付けされています。

作曲者の本多鉄磨（1905～1966）は、天台宗の僧侶で、幼稚園の園長として仏教保育に携わった人物です。友人同士であったこの二人によって、《清らに飾れ》《知っている》など、多数の仏教讃歌が生み出されました。

花まつりの様子を歌った作品ですが、歌詞には、花まつりとはどういう日であるか、具体的な描写はありません。どうして甘茶をそそぐのか、なぜ蓮華の花が降るのか——感じた疑問を広げ、お釈迦さまのご誕生について、ぜひ子どもたちとお話ししてみてください。これからさまざまな行事を経験するなかで、仏さまに見守られていることを知り、大きく成長していく子どもたちの、確かな第一歩となるはずです。

◆演奏のヒント

1小節目の歌い出しにシンコペーションのリズム（タ・ター・タ）が出てきます。ここはあまり強調せず、自然な流れで歌い出すとよいでしょう。語尾の付点4分音符は、次の小節を意識して丁寧な歌うと、曲全体にまとまりが生まれます。ただし、テンポが遅くならないように注意が必要です。

後半は、歌のメロディが大きく動くため、少し音を取りにくいかもしれませんが、子どもたちが歌いやすいように、メロディをなぞっている伴奏右手でサポートしてあげましょう。

◆楽譜・音源について

音源は、CD『ののきまといっしょ ほとけのこどものうた』に収録されています。

解説執筆：田村菜々子（浄土真宗本願寺派総合研究所研究助手）

※本解説は、「仏教讃歌」No. 88（保育連盟機関誌『月刊保育資料 まことの保育』第692号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.